

平成9年1月7日

はばたけ 「舞台人」
～劇場都市・池袋を紹介 会報「舞台人」創刊～

池袋は演劇のまち。

豊島区舞台芸術振興会（会長：三浦大四郎）では、このほど、豊島区を舞台に活躍する演劇人を始め、広く芸術全般を紹介する会報「舞台人」を創刊した。

「舞台人」の命名は、文芸坐当主であり、同会の会長を努める三浦大四郎氏。

創刊号では、昨年8月から9月に開催された第8回池袋演劇祭の特集を始め、池袋に根づいて活躍する劇団俳小代表齊藤真氏や女優高原節子さんら演劇人の語るそれぞれの芝居人生と池袋への思いなど。池袋周辺の主な劇場マップも掲載している。

豊島区は、もともと、区内に小劇場や劇団が多く、演劇の街として知られている。

「第三舞台」など今や第一線に立つ劇団の数々が、池袋の小舞台から飛び立っていった。

こうした劇場・小ホールの責任者たちが集まって昭和56（1981）年に「池袋演劇懇話会」が発足し、情報交換をする中から、昭和63（1988）年8月には、「東京国際演劇祭'88池袋」を開催。さらに、平成元（1989）年からは、池袋の小劇場・小ホールを中心に、「池袋演劇祭」を毎年開催してきている。

平成7（1995）年には、「豊島区舞台芸術振興会」として、常設の組織に改組し、「池袋演劇祭」の主催を始め、豊島区における舞台芸術全般の振興に取り組んでいる。

事務局では、今後も、芸術を愛する風土をいかした誌面づくりに励んでいきたい、と夢をふくらませている。

次号は、5月に発行の予定。年2回の発行をめざす。

なお、豊島区舞台芸術振興会では、今年も第9回を迎える池袋演劇祭へ向けて、参加劇団を募集している。

要領：別紙参照

詳細：豊島区舞台芸術振興会事務局